

# 教育委員会だより

# GuRuMi

まち  
ぐるみ

地域  
ぐるみ

学校  
ぐるみ

## 第16号

令和4年10月1日  
発行

田川市教育委員会

教育委員会・学校と家庭・地域が力を合わせて、  
さらなる学力向上を！

田川市教育委員会 教育長 吉 柳 啓 二

田川市教育委員会と市内小中学校は、平成28年度から6年間、(1)読み・書き・計算の徹底反復学習(2)電子黒板等のICT機器を活用し、自分から進んで学ぶ力を育む授業づくりを柱にすべての子どもたちの学力保障に取り組んできました。この3年間は、新型コロナウイルス感染による臨時休業など大変な状況が続きましたが、各学校とも校長を中心に全職員で教育内容を思いきって絞り込んだり、教育方法を創意工夫したりして、学力向上に努めてきました。おかげで、各学年の学習内容の定着度を調べるために実施する「標準学力テスト」においては、コロナ禍にもかかわらず、小中学校とも学力の伸びが見られました。特に小学校の算数は、全学年が全国平均を超える好成績を2年連続で上げることができました。

また、毎年4月に全国一斉に小6と中3を対象に行われる「全国学力・学習状況調査」においても、この数年で伸びが見られ、小学校は算数や国語で全国平均を超える学校も出てきました。(この調査は「これからの社会を生き抜くために必要な力がどの程度、一人ひとりの子どもに身についているか」を把握するとともに、国の教育制度や市町村の教育施策及び学校の取組を見直すためのものです)私は「市全体の平均でも、全国平均を超えることができれば、子どもたちが学力にさらに自信を持てる！」と思っていましたが、今回はあと一步、届きませんでした。

現在、本年度の「全国学力・学習状況調査」の分析を教育委員会と学校で進めています。私は、学校での学力向上の取組強化とともに「家庭学習力・読書力」に重点化した取組が必要であると考

えています。と言うのは、全国学力・学習状況調査や高校・大学入試の問題が年々長文化し、文章・表・グラフ等を総合的に読み取り、答えを導き出す力を求める内容となっているからです。日頃より多くの本や新聞等で読解力を鍛えておかないと、なかなか解けない問題が増えています。また、全国学力・学習状況調査で田川市の子どもたちは「家庭学習時間の少なさ」「スマホ・ゲーム時間の長さ」「読書時間の短さ」などで全国と比較して厳しい結果が続いており、大変気になっています。学力向上のためだけでなく、未来を描く想像力や自分らしい学び方・生き方を身につけるためにも、スマホ・ゲーム機を置いて読書をしたり、学習したりする時間を家庭で作ってほしいと思います。

これから、田川市PTA連合会などと協働で「家庭学習力・読書力向上運動」に取り組みたいと考えております。家庭のみなさまの協力と地域のみなさまの熱い応援をお願いします。

